

## BCAO 関西支部 平成 28 年度 11 月度 (第 115 回) 勉強会議事録

日時: 11 月 16 日(水) 19:10 ~20:30

場所: 株式会社竹中工務店大阪本店(御堂ビル 地下 1 階:T's イノ ベーション サロン)

発表者: 藤村 書記: 飯田

参加者: 藤村、野原、伊藤(高)、徳永、飯田、笹平、萩原、田中、柳父、久保田、櫻本、中島、中村、林、別役、飯田、下里(オブザーバー)

テーマ: 本部提言「これからの BC(3 つの要素)」(テーマについてフリーディスカッションし、BCAO の方向性の認識を高める。)

### (1) 藤村座長より、下記資料にて説明

- ① BCAA 加入のおすすめ、01 これからの事業継続(BC)2016.2 月版
- ② 事業継続(BC)とは? 2012
- ③ これからの事業継続(BC)取り組み 2016.11.16
- ④ 事業継続能力を高めるための BCM 2016.3.10

### (2) 意見交換

- ・BC 定義改訂について、主任・准主任継続教育、専門家レベルアップ教育の中で、既に改訂版が公開されているのであれば、一般会員向け HP でも公開すべき。
- ・経営マターとして BC が位置づけられているが、BC 担当者が経営のこの部分をサポートできるというメッセージを BCAA からもっと出すべき。実務面ではここが BC 担当者にとっての最も大きな悩み。また BC は経営マターであるというメッセージ発信は本部の役割。経営者セミナーなどにどう経営者を引っ張り出すかは、本部、理事の役割。
- ・BC を中小企業-大企業、担当者-経営者など、タイプ分けして説明があると理解しやすいので検討してほしい。或いは関西支部で整理してみる手もある。
- ・原因、結果事象という言い方を改訂版では「いかなる状況(軽微、甚大、壊滅)」と言い換えた。BC の理解の手掛かりになると思う。一方で、原因、結果事象の議論の決着がつく前に言い換えており、整理ができておらず納得感に欠ける。
- ・「資料③-状況に合わせた戦略的対応」の軽微～甚大の被害程度軸の整理に違和感がある。現場と経営者とのリンケージ、誰がいつ機能するかのつながりが分断されている。被害程度にかかわらず現場が重要でこの動きが考えられていない印象。
- ・「資料③-状況に合わせた戦略的対応」は「いかなる状況」にあるかを経営者が判断し、時間軸、コスト軸を考えて代替手段或いはそれ以外の手段を選ぶという整理のマトリクスになっているとの理解。ただし、軽微～甚大の分け方は、マトリクスのなかでマッチングしにくいという印象がある。
- ・「資料③-これからの BC 取り組み」では、阪神淡路では総務・人事・設備担当中心、内閣府ガイドライン発表時は生産管理・情シス・事業管理部門中心、2016 は経営者・経営企画中心という区分けがされている。RM の中で経営者はすべてを管理したはずであり、経営者を軽視している感がある。ここにも経営者が BCAA に参加しない要因がある。
- ・また BC は経営マターと言っているにも関わらず、ここでは経営部門を他の部門と分けて説明している。

今までは一部にしか焦点を当てていなかったが、重要なのは全体としてとらえることという補足が必要。

- 防災担当者が経営者に「BC は経営マター」と説明することは現実的には不可能。現実的にはトップダウンでしか動かない。担当者の職務分掌を変えていく必要があり、①担当者が実績を作り評価を要請する②外部情報等により経営者から指示を出させる、の2種類があるが、BCAO の役割はこの2種類に分けてメッセージを発信すること。
- NPO としてコンサルとは異なるアプローチをすべき。BCAO 本部の考え方に沿っていく必要はあるが、我々として活動できることを合意形成しながら、知見を共有し、意見交換をしながら、自分のビジネスに展開していけばよい。

以上